

スコアシート	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質・性能						3.2
Q-1 室内環境			0.40			3.3
1 音環境		3.0	0.15	2.9	1.00	2.9
1.1 騒音		3.0	1.00	3.0	0.29	
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00	
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	3.7	0.50	
1.2.1 開口部遮音性能		-	-	3.0	0.30	
1.2.2 界壁遮音性能	最低1%以上確保できると判断。	-	-	4.0	0.30	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	最低1%以上確保できると判断。	-	-	5.0	0.20	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	1.0	0.21	
2 温熱環境		3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御		3.0	1.00	3.0	0.50	
2.1.1 室温設定		3.0	1.00	3.0	0.60	
2.1.2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-	
2.1.3 外皮性能		-	-	3.0	0.40	
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
2.1.6 湿度制御		-	-	-	-	
2.1.7 時間外空調		-	-	-	-	
2.1.8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	3.0	0.20	
2.3 空調方式		-	-	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.0	0.25	3.1	1.00	3.1
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.5	0.30	
3.1.1 昼光率	最低1%以上確保できると判断。	3.0	0.60	4.0	0.50	
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	0.30	
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
3.2.1 遮光器具のグレア		-	-	-	-	
3.2.2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
3.3.1 照度		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		4.2	0.25	4.2	1.00	4.2
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63	
4.1.1 化学汚染物質	建築基準法の規制より判断。	5.0	1.00	5.0	1.00	
4.1.2 化学汚染対策		-	-	-	-	
4.1.3 化学汚染対策		-	-	-	-	
4.1.4 レジデュアル対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38	
4.2.1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.2.2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.2.4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	
4.3.2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q-2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3
1 機能性		3.4	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60	4.0	0.60	
1.1.1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	
1.1.2 高度情報通信設備対応	デベ仕様は100Mbitクラス確保	4.0	-	4.0	1.00	
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.40	3.5	0.40	
1.2.1 広さ感・景観		3.0	-	3.0	0.50	
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
1.2.3 内装計画	取組項目のうち、1、3、4番の3項目は該当と判断。	4.0	1.00	4.0	0.50	
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31	-	-	3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.33	-	-	
2.2.1 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.29	-	-	
2.2.2 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	建築物の構成要素の耐用年数一覧表より判断。	5.0	0.12	-	-	
2.2.3 配管・配線材の更新必要間隔	建築物の構成要素の耐用年数一覧表より判断。	4.0	0.29	-	-	
2.2.4 主要設備機器の更新必要間隔	各機器によるが、基本的には16年以上～30年未満と判断。	4.0	0.29	-	-	
2.3 適切な更新		-	-	-	-	
2.3.1 屋上(屋根)・外壁仕上げ材の更新		-	-	-	-	
2.3.2 配管・配線材の更新		-	-	-	-	
2.3.3 主要設備機器の更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		3.4	0.19	-	-	
2.4.1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2.4.2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
2.4.3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
2.4.4 機械・配管支持方法	最低でも、耐震クラスAを確保と判断。	4.0	0.20	-	-	
2.4.5 通信・情報設備	取組項目の1、3番の2項目が該当すると判断。	4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.1	0.29	3.0	1.00	3.0
3.1	空間のゆとり		-	-	3.0	0.50	
1	1 階高のゆとり		3.0	-	3.0	0.60	
2	2 空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
3.2	3.2 荷重のゆとり		3.0	-	3.0	0.50	
3.3	3.3 設備の更新性		3.1	1.00	-	-	
1	1 空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	2 給排水管の更新性	構造躯体を痛める事無く、修繕、修理できると判断。	4.0	0.17	-	-	
3	3 電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	4 通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	5 設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	6 バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q-3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1	1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2	2 まちなみ・景観への配慮	取組項目のうち、3)、4)、5)、8)の4項目はポイントと判断。	3.0	0.40	-	-	3.0
3	3 地域性・アメニティへの配慮		4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	取組項目のうち、3)、5)、6)、7)の4項目はポイントと判断。	4.0	0.50	-	-	
3.2	3.2 敷地内温熱環境の向上	取組項目のうち、1)~(2)、2)~(1)・(2)、3)~(1)・(2)はポイントと判断。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR-1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1	1 建物の熱負荷抑制		3.0	0.40	-	-	3.0
2	2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	2.2 自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3	3 設備システムの高効率化	CEC/L計算による。	4.1	0.40	-	-	4.1
4	4 効率的運用		-	-	-	-	-
4.1	4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR-2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1	1 水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	1.1 節水	節水器具の採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2	1.2 雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	1 雨水利用システム		3.0	1.00	-	-	
2	2 雑排水利用システム		3.0	-	-	-	
2	2 低環境負荷材		3.4	0.85	-	-	3.4
2.1	2.1 資源の再利用効率		3.6	0.35	-	-	
1	1 躯体材料の再利用効率		3.0	0.67	-	-	
2	2 非構造材料の再利用効率	パーティクルボード等の集成材を利用。	5.0	0.33	-	-	
2.2	2.2 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.04	-	-	
2.3	2.3 有害物質を含まない材料	多くの材料は指定化学物質を含まず、該当が4つ以上であると判断。	5.0	0.08	-	-	
2.4	2.4 既存建築躯体などの再利用		3.0	0.18	-	-	
2.5	2.5 部材の再利用可能性		3.0	0.18	-	-	
2.6	2.6 フロン・ハロンの回避		3.3	0.18	-	-	
1	1 消火剤	ハロン消化剤を不使用。	4.0	0.33	-	-	
2	2 断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	3 冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR-3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1	1 大気汚染防止	熱源機から発生するNox、Soxが大幅に抑制されていると判断。	4.0	0.10	-	-	4.0
2	2 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.10	-	-	3.0
2.1	2.1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2.2	2.2 振動		-	-	-	-	
2.3	2.3 悪臭		-	-	-	-	
3	3 風害、日照障害の抑制		3.0	0.15	-	-	3.0
3.1	3.1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
3.2	3.2 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
4	4 光害の抑制	広告物が無い為。	4.0	0.10	-	-	4.0
5	5 温熱環境悪化の改善		2.0	0.30	-	-	2.0
6	6 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	3.0
6.1	6.1 雨水処理負荷抑制		-	-	-	-	
6.2	6.2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
6.3	6.3 交通負荷抑制	取組項目のうち、1-1)、2-1)、2-3)はポイントと判断。	4.0	0.33	-	-	
6.4	6.4 廃棄物処理負荷		2.0	0.33	-	-	

■ LR-1 用途別得点表		集合住宅	-	-	-	面積按分
		2769 m ²	-	-	-	総合スコア
1	建物の熱負荷抑制	3.0	-	-	-	3.0
3	設備システムのERRIによる評価	-	-	-	-	4.1
	高効率化 個別設備による評価	4.1	-	-	-	
3.1	空調設備	-	-	-	-	-
3.2	換気設備	-	-	-	-	-
3.3	照明設備	5.0	-	-	-	-
3.4	給湯設備	4.0	-	-	-	-
3.5	昇降機設備	3.0	-	-	-	-